

# 平成 24 年度 大阪バスケットボール協会 外傷障害調査回収結果

総回収数 1196 名分 (延べ)

連盟	回収できたチーム数/ 総チーム数 (%率)	回収数	男/女
高体連	195/430 (45.3%)	1117	531/585
家庭人	15/22 (68.2%)	43	0/43
実業団	8/41 (19.5%)	13	9/4
ミニバスケットボール	2/300 (0.7%)	10	1/9
クラブ連	5/142 (3.5%)	7	2/5
大学	1/49 (2.0%)	3	0/3
専門学校	2/12 (16.7%)	3	0/3

総回収率 14.3% 性別不明 1 例

## 【月別受傷者数】

受傷月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	92	62	104	121	75	101	120	139	57	87	79	104

記載なし 55 名分

## 【時刻別受傷者数】

受傷時刻	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時
人数	9	9	37	110	117	45	48	89
	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	無記載
	116	145	143	51	9	6	3	259

## 【部位別受傷者数】

無し	頸部	腰	肩	肘	上腕	前腕	手関節	手	胸部
44	1	48	23	9	2	2	16	198	7
腹部	背部	股関節	膝	大腿部	下腿部	足関節	足	頭部	顔面
4	1	17	152	39	66	441	44	11	71

## 【受診先】

無し	整形外科	整形外科以外	整骨院
43	896	67	190

### 整形外科

高体連 : 902 例 (男 453 女 449) 家庭人 : 33 例 (男 0 女 33) 実業団 : 11 例 (男 8 女 3)

大学 : 3 例 (男 0 女 3) クラブ連 : 5 例 (男 2 女 3) ミニ : 8 例 (男 1 女 7)

専門学校 : 1 例 (男 0 女 1)

## 整骨院

高体連：172例（男57女115） 家庭人：10例（男0女10） 実業団：2例（男2女0）  
クラブ連：2例（男0女2） ミニ：2例（男0女2） 専門学校：2例（男0女2）

## 【詳細】

### 1. 足関節

#### 《構成》

高体連：425例（男196女229） 婦人連：5例（男0女5） 実業団：5例（男5女0）  
クラブ連：3例（男0女3） ミニ：1例（男1女0） 大学：0例（男0女0） 専門学校：2例（男0女2）

#### 《疾患名》

捻挫 333例 靭帯損傷 30例 骨折 29例 腱炎・腱損傷 15例 シンスプリント 7例  
脱臼 3例 打撲 2例 疲労骨折 1例 炎症 5例 他

《既往の有無》 有 174例 無 246例 不明 21例

《受診先》 整形外科 326例 整形外科以外 12例 整骨院 77例 不明 26例

《状況》 試合中 128例 練習中 293例 不明 20例

#### 《受傷機転》

着地時 270例 方向転換 46例 ランニング 30例 ストップ 29例  
ジャンプ 11例 パスキャッチ 5例 他

《場所》 体育館 423例 運動場 1例 廊下 1例 他

《天候》 晴 304例 曇 59例 雨 21例 雪 1例 他

#### 《月別受傷者数》

1月 34例、2月 23例、3月 39例、4月 51例、5月 20例、6月 35例、  
7月 45例、8月 58例、9月 17例、10月 32例、11月 28例、12月 46例 他

#### 《試合中の受傷例について》

試合後開始 Q

第1Q：33例、第2Q：22例、第3Q：25例、第4Q：14例、第5Q：2例 第6Q：5例 他

《経過試合数》 1試合目：67例、2試合目：20例、3試合目：5例、4試合目：4例、6試合目：2例

#### 《時間帯》

7時 2例、8時 1例、9時 12例、10時 41例、11時 37例、12時 21例、13時 17例、14時 32例、  
15時 44例、16時 51例、17時 62例、18時 23例、19時 5例、20時 3例、21時 1例、 他 89例

《復帰日数》（記載 276 例）

平均日数：20.7±1.9 日（標準誤差）

《疾患名別復帰日数》

捻挫（219 例）：15.3±1.5 日、靭帯損傷（17 例）：47.6±11.9 日、骨折（18 例）：36.8±7.9 日、  
シンスプリント（6 例）：68.7±37.2 日、腱炎（3 例）：2.7±0.9 日、炎症（3 例）：11.3±5.0 日、  
脱臼（3 例）58.3±27.2 日 他

《受診先別復帰日数》

整形外科（220 例）23.8±2.4 日、整形外科以外（5 例）9.6±2.7 日、整骨院（42 例）8.1±1.1 日  
他（9 例）10.1±3.0 日

《天候別復帰日数》

晴（203 例）20.9±2.2 日、曇（35 例）24.7±7.9 日、雨（9 例）22.7±8.3 日、他（29 例）14.1±2.8 日

《既往症の有無別復帰日数》

有（110 例）18.7±2.8 日、無（158 例）22.5±2.7 日、不明（8 例）12.4±5.5 日

《男女別復帰日数》 男（122 例）20.5±3.0 日、女（154 例）20.9±2.6 日

《試合・練習による復帰日数》

試合（79 例）18.6±2.7 日、練習（186 例）22.0±2.6 日、他（11 例）14.2±5.4 日

《月別復帰日数》

1 月（20 例）17.9±4.5 日、2 月（15 例）20.5±3.2 日、3 月（19 例）11.3±5.6 日、  
4 月（28 例）19.3±7.5 日、5 月（11 例）16.3±5.7 日、6 月（21 例）17.6±3.2 日  
7 月（30 例）28.1±9.1 日、8 月（37 例）26.7±8.0 日、9 月（13 例）21.7±7.0 日  
10 月（24 例）12.8±2.0 日、11 月（22 例）20.5±4.4 日、12 月（36 例）24.4±5.1 日

《受傷機転別復帰日数》

着地時（183 例）19.6±2.0 日、ストップ（17 例）18.5±5.4 日、ランニング（14 例）32.3±17.6 日、  
方向転換（29 例）20.8±6.6 日、ジャンプ（8 例）8.3±3.2 日、他（15 例）37.5±14.5 日

《年齢別復帰日数》

15 歳（44 例）34.0±8.9 日、16 歳（112 例）18.6±2.2 日、17 歳（88 例）16.8±2.3 日  
18 歳（11 例）8.6±2.8 日、38 歳（2 例）74.0±62.0 日

《手術症例》 9 例

《手術までの待機日数》23.1±9.7 日

## 2. 手

### 《構成》

高体連：178例（男86女92） 婦人連：10例（男0女10） 実業団：4例（男2女2）  
クラブ連：1例（男0女1） ミニ：4例（男0女4） 大学：0例（男0女0） 専門学校：0例（男0女0）

### 《疾患名》

骨折 97例 捻挫 26例 脱臼 23例 突き指 20例 打撲 13例  
靭帯損傷 7例 マレットフィンガー1例 肉離れ 1例 炎症 1例 他

《既往の有無》 有 18例 無 171例

《受診先》 整形外科 173例 整形外科以外 2例 整骨院 18例 他

《状況》 試合中 45例 練習中 150例 他

### 《受傷機転》

パスキャッチ 131例 方向転換 5例 ランニング 9例 ストップ 1例 ジャンプ 5例  
衝突 6例 着地時 4例 他

《場所》 体育館 188例 運動場 2例 他

《天候》 晴 132例 曇 30例 雨 7例 他

### 《月別受傷者数》

1月 11例、2月 7例、3月 17例、4月 21例、5月 14例、6月 18例、7月 23例  
8月 17例、9月 12例、10月 16例、11月 19例、12月 15例 他

### 《試合中の受傷例について》

試合後開始 Q

第1Q：7例、第2Q：10例、第3Q：10例、第4Q：2例、第6Q：2例 他

《経過試合数》 1試合目：17例、2試合目：12例、3試合目：1例、4試合目：1例、5試合目：1例

### 《時間帯》

7時 3例、8時 1例、9時 4例、10時 24例、11時 16例、12時 5例、13時 10例、14時 22例、  
15時 20例、16時 28例、17時 24例、18時 8例、19時 1例、20時 0例、21時 2例 他

《復帰日数》（記載 112例）

### 《疾患名別復帰日数》

捻挫（12例）：9.5 ± 3.7日、 靭帯損傷（5例）：18.6 ± 4.9日、 骨折（62例）：26.0 ± 2.7日、  
打撲（6例）：8.3 ± 3.1日、 脱臼（13例）15.8 ± 4.0日、 突き指（10例）：5.0 ± 1.5日

《受診先別復帰日数》

整形外科（106例）19.6±1.9日、 整形外科以外（0例）、 整骨院（5例）14.8±4.2日 他

《天候別復帰日数》 晴（76例）20.2±2.3日、 曇（16例）18.0±5.2日、 雨（6例）18.0±5.6日 他

《既往症の有無別復帰日数》 有（7例）13.4±2.5日、 無（100例）19.6±2.0日、 他

《男女別復帰日数》 男（63例）18.7±1.9日、 女（49例）20.0±3.4日

《月別復帰日数》

1月（5例）18.8±6.3日、 2月（1例）16日、 3月（9例）7.6±3.1日、  
4月（15例）30.0±7.0日、 5月（7例）22.7±7.1日、 6月（11例）11.2±3.1日  
7月（14例）16.1±2.8日、 8月（11例）21.8±5.2日、 9月（5例）17.6±7.9日  
10月（12例）23.1±7.0日、 11月（12例）11.1±2.8日、 12月（10例）28.5±9.0日

《受傷機転別復帰日数》

着地時（3例）12.3±8.5日、 ランニング（3例）14.7±8.1日、 パスキャッチ（76例）19.2±2.1日、  
ジャンプ（2例）58.5±44.5日、 衝突（5例）11.6±3.4日 他

《年齢別復帰日数》

15歳（18例）22.2±4.8日、 16歳（51例）19.1±2.1日、 17歳（32例）15.6±3.3日  
39歳（2例）27.0±26.0日、 41歳（2例）57.5±45.5日

《手術症例》 4例

《手術までの待機日数》 4.3±2.1日

### 3. 膝

《構成》

高体連：139例（男50女89） 婦人連：8例（男0女8） 実業団：0例（男0女0）  
クラブ連：2例（男1女1） ミニ：0例（男0女0） 大学：2例（男0女2） 専門学校：1例（男0女1）

《疾患名》

捻挫15例 靭帯損傷35例 骨折1例 オスグッド・ジャンパー膝12例 シンスプリント2例  
打撲18例 疲労骨折1例 炎症21例 半月板損傷12例 骨挫傷2例 筋損傷7例 軟骨損傷2例 他

《既往の有無》 有43例 無98例 不明11例

《受診先》 整形外科127例 整形外科以外5例 整骨院18例 不明2例

《状況》 試合中43例 練習中100例 他

《受傷機転》

着地時 25 例 方向転換 23 例 ランニング 21 例 ストップ 23 例 ジャンプ 9 例 パスキャッチ 13 例 他

《場所》 体育館 139 例 運動場 1 例 他

《天候》 晴 104 例 曇 17 例 雨 8 例 他

《月別受傷者数》

1 月 12 例、2 月 12 例、3 月 10 例、4 月 19 例、5 月 13 例、6 月 13 例、7 月 12 例、  
8 月 13 例、9 月 11 例、10 月 8 例、11 月 12 例、12 月 9 例 他

《試合中の受傷例について》

試合後開始 Q 第 1Q : 11 例、第 2Q : 10 例、第 3Q : 8 例、第 4Q : 7 例、第 6Q : 1 例 他

《経過試合数》

1 試合目 : 18 例、2 試合目 : 12 例、3 試合目 : 4 例、4 試合目 : 1 例、5 試合目 : 1 例

《時間帯》

7 時 2 例、8 時 3 例、9 時 7 例、10 時 14 例、11 時 19 例、12 時 2 例、13 時 4 例、  
14 時 5 例、15 時 20 例、16 時 19 例、17 時 14 例、18 時 5 例、19 時 1 例、20 時 1 例 他

《復帰日数》(記載 74 例)

《疾患名別復帰日数》

捻挫 (10 例) :  $25.6 \pm 10.4$  日、靭帯損傷 (15 例) :  $114.9 \pm 30.8$  日、打撲 (12 例) :  $9.8 \pm 2.2$  日、  
筋損傷 (5 例) :  $17.4 \pm 6.0$  日、半月板損傷 (3 例) :  $100.0 \pm 35.1$  日、炎症 (7 例) :  $12.4 \pm 5.4$  日 他

《受診先別復帰日数》

整形外科 (67 例)  $52.0 \pm 9.5$  日、整形外科以外 (1 例) 9 日、整骨院 (6 例)  $6.8 \pm 2.7$  日

《天候別復帰日数》

晴 (51 例)  $52.5 \pm 11.2$  日、曇 (9 例)  $50.0 \pm 27.6$  日、雨 (4 例)  $47.5 \pm 41.0$  日、他 (10 例)  $21.4 \pm 8.4$  日

《既往症の有無別復帰日数》 有 (16 例)  $61.8 \pm 23.7$  日、無 (54 例)  $49.8 \pm 9.6$  日、他

《男女別復帰日数》 男 (28 例)  $37.5 \pm 11.3$  日、女 (46 例)  $53.9 \pm 12.2$  日

《試合・練習による復帰日数》

月別復帰日数

1 月 (5 例)  $8.2 \pm 5.5$  日、2 月 (8 例)  $13.5 \pm 2.9$  日、3 月 (5 例)  $8.2 \pm 2.6$  日、  
4 月 (10 例)  $90.5 \pm 37.8$  日、5 月 (6 例)  $56.0 \pm 32.2$  日、6 月 (6 例)  $97.8 \pm 43.1$  日  
7 月 (8 例)  $54.3 \pm 28.9$  日、8 月 (5 例)  $54.2 \pm 39.1$  日、9 月 (8 例)  $50.0 \pm 22.2$  日  
10 月 (1 例) 60 日、11 月 (6 例)  $45.2 \pm 26.3$  日、12 月 (5 例)  $9.6 \pm 1.2$  日

#### 《受傷機転別復帰日数》

着地時 (9 例) 73.8±34.8 日、ストップ (例) 48.4±19.1 日、ランニング (13 例) 50.6±22.1 日、  
方向転換 (10 例) 33.4±17.9 日、ジャンプ (6 例) 16.2±4.3 日

#### 《年齢別復帰日数》

15 歳 (10 例) 16.8±3.9 日、16 歳 (25 例) 47.0±12.3 日、17 歳 (26 例) 50.7±17.2 日、  
18 歳 (5 例) 7.8±1.9 日、49 歳 (2 例) 52.0±51.0 日

#### 《手術症例》 10 例

#### 《手術までの待機日数》 65.1±12.0 日

### 4. 顔面

#### 《構成》

高体連 : 66 例 (男 46 女 20) 婦人連 : 2 例 (男 0 女 2) 実業団 : 1 例 (男 0 女 1)  
クラブ連 : 0 例 (男 0 女 0) ミニ : 2 例 (男 0 女 2) 大学 : 0 例 (男 0 女 0) 専門学校 : 0 例 (男 0 女 0)

#### 《疾患名》 骨折 15 例 打撲 14 例 挫創 17 例 歯芽欠損 7 例 鼓膜損傷 2 例 他

#### 《既往の有無》 有 5 例 無 63 例 不明 3 例

#### 《受診先》 整形外科 36 例 整形外科以外 31 例 整骨院 0 例 不明 4 例

#### 《状況》 試合中 26 例 練習中 45 例 他

#### 《受傷機転》 着地時 0 例 方向転換 18 例 ランニング 0 例 ジャンプ 8 例 パスキャッチ 7 例 他

#### 《場所》 体育館 67 例 クレーコート 1 例 他

#### 《天候》 晴 48 例 曇 13 例 雨 2 例 他

#### 《月別受傷者数》

1 月 6 例、2 月 7 例、3 月 6 例、4 月 7 例、5 月 3 例、6 月 2 例、7 月 3 例、  
8 月 12 例、9 月 1 例、10 月 5 例、11 月 8 例、12 月 8 例 他

#### 《試合中の受傷例について》 試合後開始 Q 第 1Q : 6 例、第 2Q : 4 例、第 3Q : 6 例、第 4Q : 3 例 他

#### 《経過試合数》 1 試合目 : 10 例、2 試合目 : 5 例、3 試合目 : 1 例、4 試合目 : 2 例

#### 《時間帯》

7 時 0 例、8 時 1 例、9 時 2 例、10 時 6 例、11 時 12 例、12 時 3 例、13 時 2 例、  
14 時 6 例、15 時 6 例、16 時 13 例、17 時 9 例、18 時 2 例、19 時 1 例 他

《復帰日数》（記載 38 例）

《疾患名別復帰日数》

骨折（10 例）：19.5±5.6 日、挫創（10 例）：5.4±1.6 日、打撲（6 例）4.5±1.7 日  
歯芽欠損（4 例）23.8±8.0 日

《受診先別復帰日数》 整形外科（18 例）13.1±3.6 日、整形外科以外（19 例）9.0±2.5 日 他

《天候別復帰日数》 晴（26 例）9.0±1.8 日、曇（6 例）18.0±9.0 日、雨（1 例）45 日 他

《既往症の有無別復帰日数》 有（3 例）21.3±12.4 日、無（34 例）9.9±2.1 日

《男女別復帰日数》 男（26 例）12.7±2.8 日、女（12 例）6.5±2.6 日

《月別復帰日数》

1 月（4 例）5.0±1.6 日、2 月（4 例）11.5±4.8 日、3 月（4 例）4.5±2.5 日、  
4 月（2 例）8.5±7.5 日、5 月（2 例）3.0±2.0 日、6 月（1 例）20 日、  
7 月（0 例）、8 月（8 例）9.3±3.9 日、9 月（0 例）  
10 月（3 例）19.0±7.9 日、11 月（4 例）14.3±10.3 日、12 月（6 例）15.4±9.1 日

《受傷機転別復帰日数》

着地時（0 例）、ストップ（0 例）、ランニング（0 例）、パスキャッチ時（7 例）18.0±8.0 日、  
方向転換（7 例）16.0±5.9 日、ジャンプ（6 例）3.7±1.0 日

《年齢別復帰日数》 15 歳（0 例）、16 歳（20 例）11.1±3.2 日、17 歳（15 例）9.7±3.0 日

《手術症例》 9 例

《手術までの待機日数》 2.2±1.0 日

## 5. 下腿

《構成》

高体連：63 例（男 29 女 34） 婦人連：3 例（男 0 女 3）

《疾患名》

シンスプリント・疲労骨折 44 例 筋損傷 14 例 打撲 2 例 コンパートメント症候群 1 例  
炎症 1 例 骨折 1 例 他

《既往の有無》 有 15 例 無 48 例 不明 3 例

《受診先》 整形外科 45 例 整形外科以外 1 例 整骨院 18 例 不明 2 例

《状況》 試合中 8 例 練習中 52 例 他



《受傷機転》 着地時 3 例 方向転換 1 例 ランニング 19 例 ジャンプ 10 例 パスキャッチ 2 例 他

《場所》 体育館 57 例 運動場 3 例 他

《天候》 晴 48 例 曇 9 例 雨 2 例 他

《月別受傷者数》

1 月 5 例、2 月 3 例、3 月 10 例、4 月 6 例、5 月 5 例、6 月 6 例、  
7 月 6 例、8 月 8 例、9 月 2 例、10 月 2 例、11 月 3 例、12 月 4 例 他

《試合中の受傷例について》 試合後開始 Q 第 1Q : 1 例、第 2Q : 2 例、第 3Q : 2 例、第 4Q : 3 例 他

《経過試合数》 1 試合目 : 4 例、2 試合目 : 3 例、3 試合目 : 1 例

《時間帯》

7 時 0 例、8 時 0 例、9 時 5 例、10 時 3 例、11 時 4 例、12 時 6 例、13 時 2 例、  
14 時 4 例、15 時 4 例、16 時 7 例、17 時 3 例、18 時 2 例、19 時 0 例、21 時 1 例 他

《復帰日数》 (記載 25 例)

《疾患名別復帰日数》 シンスプリント (15 例) :  $30.0 \pm 9.2$  日、筋損傷 (6 例)  $16.8 \pm 3.0$  日

《受診先別復帰日数》 整形外科 (18 例)  $25.9 \pm 7.5$  日、整形外科以外 (0 例) 整骨院 (5 例)  $24.6 \pm 10.7$  日

《天候別復帰日数》 晴 (19 例)  $23.3 \pm 7.3$  日、曇 (2 例)  $13.5 \pm 0.5$  日、雨 (1 例) 16 日 他

《既往症の有無別復帰日数》 有 (7 例)  $29.4 \pm 13.1$  日、無 (17 例)  $21.2 \pm 6.8$  日

《男女別復帰日数》 男 (10 例)  $14.0 \pm 3.1$  日、女 (15 例)  $30.5 \pm 9.2$  日

《月別復帰日数》

1 月 (2 例)  $12.5 \pm 3.5$  日、2 月 (2 例) 14.0 日、3 月 (3 例)  $7.7 \pm 3.5$  日、  
4 月 (4 例)  $14.3 \pm 6.4$  日、5 月 (3 例)  $3.0 \pm 2.0$  日、6 月 (0 例)  
7 月 (3 例)  $24.3 \pm 3.8$  日、8 月 (3 例)  $51.3 \pm 36.9$  日、9 月 (1 例) 31 日  
10 月 (0 例)、11 月 (1 例) 9 日、12 月 (3 例)  $33.4 \pm 16.8$  日

《受傷機転別復帰日数》

着地時 (0 例)、ストップ (2 例)  $12.5 \pm 6.5$  日、ランニング (6 例)  $31.5 \pm 19.1$  日、  
ジャンプ (6 例)  $20.8 \pm 3.7$  日

《年齢別復帰日数》 15 歳 (4 例)  $12.3 \pm 5.2$  日、16 歳 (11 例)  $26.4 \pm 8.4$  日、17 歳 (9 例)  $27.1 \pm 12.5$  日

【診断名別受傷者数】

捻挫	骨折	打撲	靭帯損傷	シンスプリント	肉離れ・筋損傷	脱臼	腰痛・腰椎分離・椎間板ヘルニア
406	186	85	73	65	59	44	19
172/234	107/79	49/36	19/54	24/41	21/38	15/29	15/4
挫創	疲労骨折	半月板損傷	腱炎	歯芽損傷	腱損傷	熱中症	
18	12	12	10	7	6	4	
11/8	3/9	4/8	3/7	6/1	3/3	2/2	

3列目は男/女比 合計 1008名/1196名

【部位・診断名別受傷者数】

①骨折

手：103例

受診先：整形外科 99例 整形外科以外 0例 整骨院 3例 不明 1例

受傷機転：パスキャッチ 63例 ランニング 6例 方向転換 5例 衝突 4例 着地時 3例 他

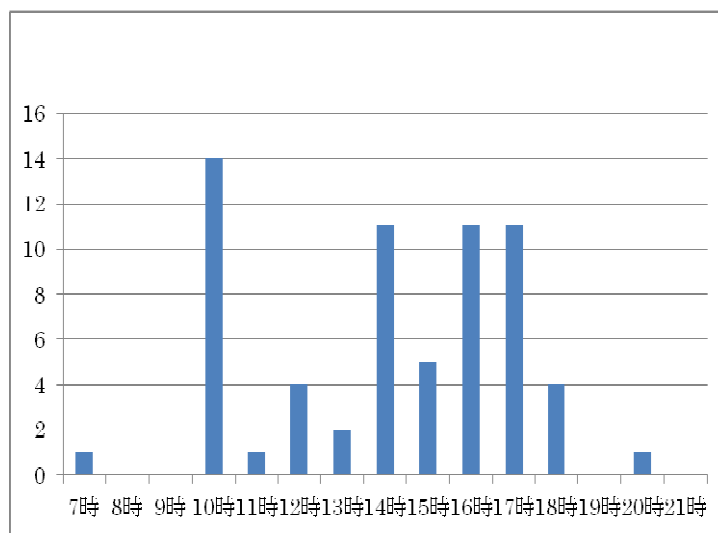
練習：74例（高校 71、家庭人 2、実業団 1）

試合：28例（高校 22、家庭人 4、ミニ 1、実業団 1）

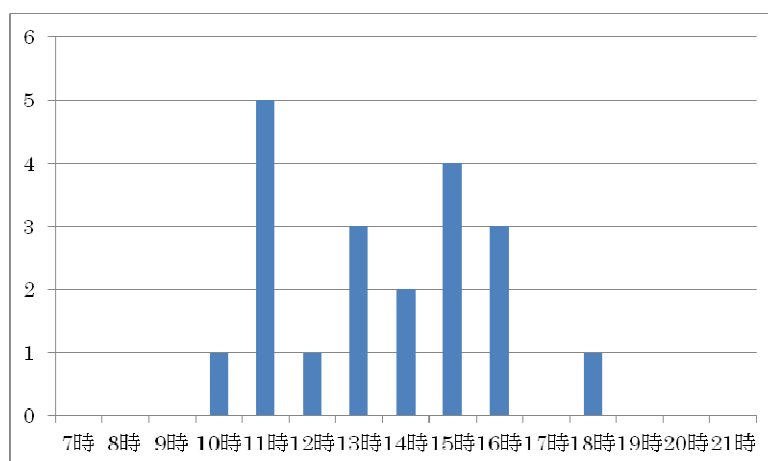
1試合目 9名 2試合目以降 10名 他

部位	母指	示指	中指	環指	小指
例数	5	11	16	15	36
手術数	0	0	1	2	2

練習中の発生時刻



試合中の発生時刻



足関節： 30 例      手術数 1

受診先： 整形外科 29 例      整形外科以外 0 例      整骨院 1 例

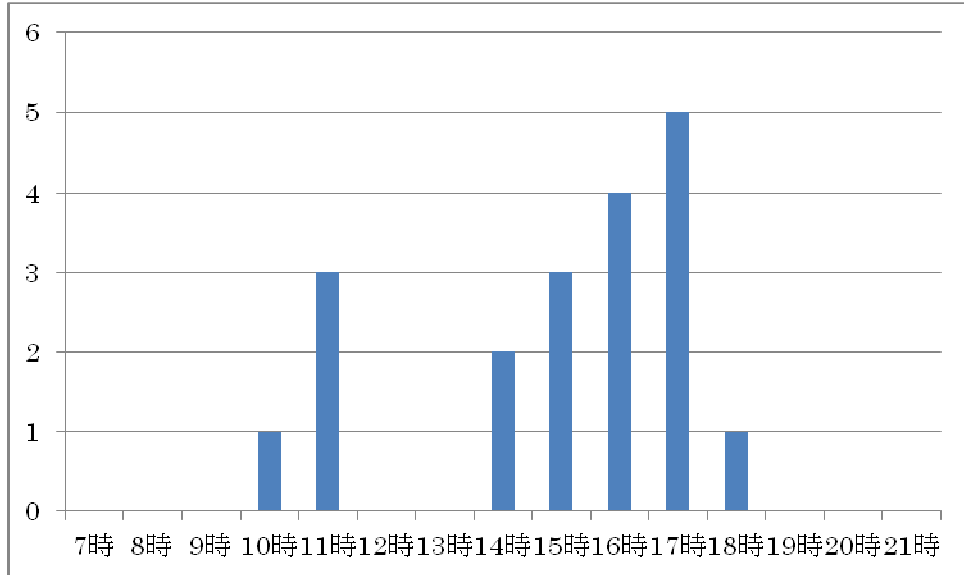
受傷機転： 着地時 19 例      ストップ時 4 例      方向転換 2 例      他

練習： 21 例（高校 18、家庭人 2、ミニ 1）

試合： 7 例（高校 7）

1 試合目 4 名      2 試合目以降 2 名      他

練習中の発生時刻



試合中は 10, 11, 14, 15 時に 1 人ずつ

他部位の骨折

鼻骨骨折： 12 例      手関節骨折： 7 例      他

#### 【医科学委員会よりのコメント】

手指骨折の大半は、パスキャッチミスから発症しています。脱臼・捻挫・靭帯損傷も同様の原因にて発症します。

突き指と言う病名の中に、腱損傷や靭帯損傷が含まれている可能性があります。腱損傷の場合は伸筋腱損傷が多く、早期から治療を開始すればそれなりに治癒する可能性があります。また靭帯損傷を放置していると、易脱臼性を生じ、日常生活に影響することがあります。

滅多にありませんが、手関節の捻挫と診断された中に、手舟状骨骨折が含まれる場合があります。休日診療によって発見されることはほとんどありません。手舟状骨骨折は適切な治療を受けないと偽関節を生じ、日常生活に影響します。

足関節外くるぶしの骨折は部位により、わずかのズレでも（1mm 程度）関節面の亜脱臼を引き起こし後遺障が発生することがあります。

#### ②足関節捻挫、足関節靭帯損傷

足関節捻挫： 333 例（男 153 女 180）      足関節靭帯損傷： 30 例（男 12 女 18）

《足関節捻挫》

受傷機転： 着地時 217 例（男 102、女 115）      方向転換 35 例（男 16、女 19）

ストップ時 24 例（男 9、女 15）      ランニング 18 例（男 10、女 8）

パスキャッチ 5 例（男 2、女 3）

既往症有り： 144 例（男 65、女 79）

受傷機転： 着地時 87 例（男 30、女 57）      方向転換 17 例（男 9、女 8）

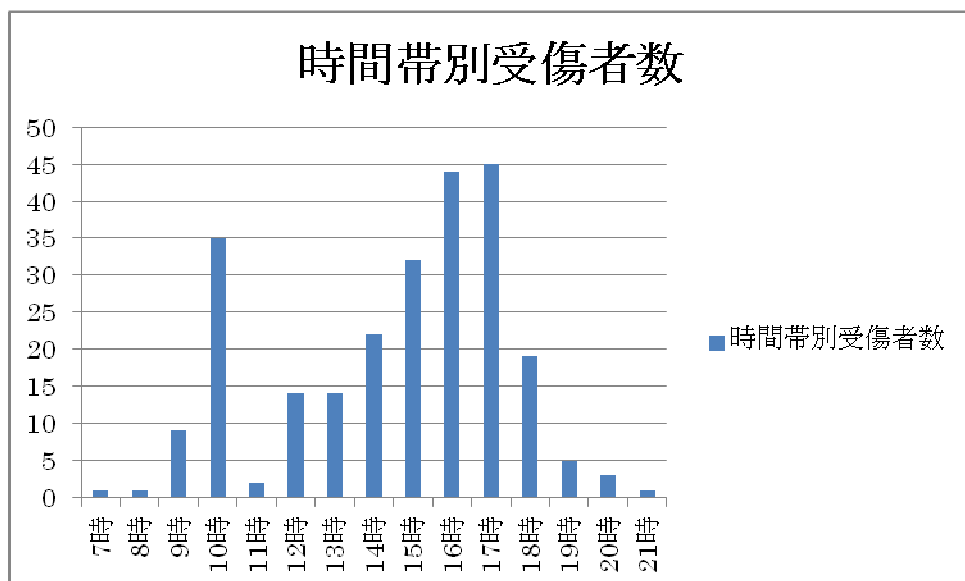
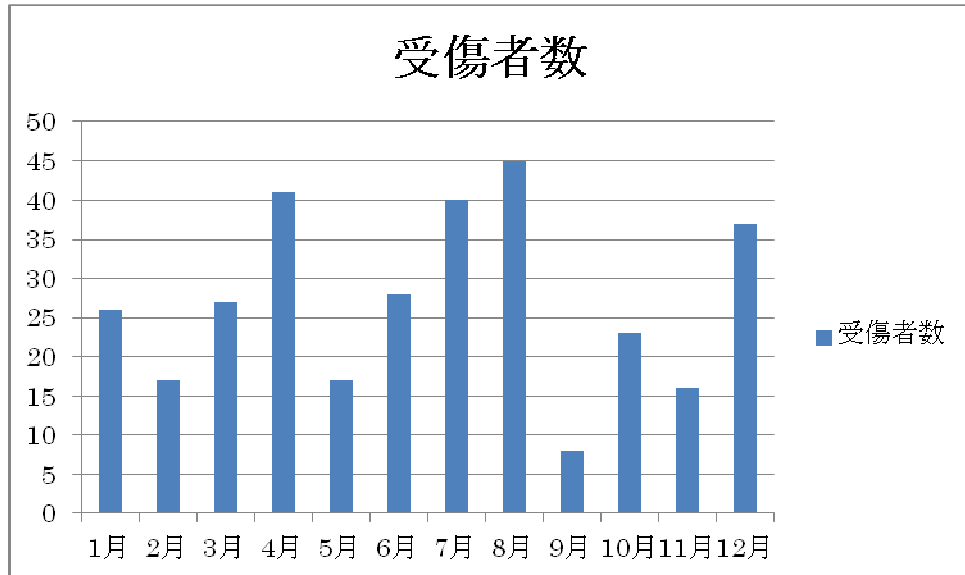
既往症無し： 172 例（男 81、女 91）

受傷機転： 着地時 130 例（男 72、女 58） 方向転換 18 例（男 7、女 11）

受診先： 整形外科 249 例（男 127、女 122） 整形外科以外 4 例（男 0、女 4）

整骨院： 65 例（男 14、女 51）

受診先別平均復帰日数： 整形外科 17.1±1.9 日 整形外科以外 10.8±3.2 日 整骨院 8.0±1.1 日



#### 【医科学委員会よりのコメント】

捻挫の定義は“関節を構成する靭帯および関節包の一部あるいは全てが破たんし、骨性に亜脱臼位にあったものが、正常の解剖学的位置に戻った状態”です。

すなわち、靭帯断裂・関節損傷という認識をもってください。

足関節捻挫の治療法は日本全国でほぼ画一化されつつあります。特に初回捻挫の場合は治療方針をきっちり守りましょう。

複数回捻挫の選手を確認された指導者の皆様へ

まずは適切な診察を受けた後に、練習・試合参加時の装具療法の可能性についてご検討ください。

### ③膝前十字靭帯損傷

#### 前十字靭帯損傷

高体連の前十字靭帯損傷者について

受傷部位： 膝 139 例/1117 例（男 532、女 585 例）

半月板損傷 11 例（男 4、女 7）

前十字靭帯損傷 19 例（男 1、女 18 例）

受傷機転： 着地時：7 例、方向転換 5 例、パスキャッチ時・ストップ時 3 例ずつ、全例、整形外科受診手術までの待機期間（全例手術施行）：77.3±10.0 日

術後復帰までの日数： 210.5±24.7 日（6 例復帰、13 例リタイヤ）

《前十字靭帯損傷疑い例について》 51 例/139 例（男 11、女 40）

復帰までの時間が長期化、病名が疑わしい 受傷機転が疑わしい

受診先： 整形外科 39 例 整形外科以外 2 例 整骨院 9 例 不明 1 例

病名： 靭帯損傷：9 例、捻挫：13 例 関節水腫：6 例、軟骨損傷・骨挫傷：4 例他

受傷機転： ストップ時：12 例、方向転換：8 例、着地時：10 例、パスキャッチ：7 例 他

※ 高体連女子の場合、もし疑い例が全例、前十字靭帯損傷であったとすれば、58 例

#### 【医科学委員会よりのコメント】

損傷すると治療期間が長期化し、高校生の場合はほぼ選手生命に関わる疾患です。医学書等に記載される復帰率よりはるかに低い、実際の競技復帰率に愕然としました。

もし疑い例が全て前十字靭帯損傷ならば、今回いただいた高校女子の外傷・障害の、実に 10%が前十字靭帯損傷ということになります。

残念ながら、現在適切な予防の方法はありません。

指導者の皆様には、以下にあげる危険因子をもってある程度の参考となさってください。

- ①他の靭帯損傷の既往（内側側副靭帯損傷など）
- ②半月板損傷の既往
- ③前排卵期
- ④関節弛緩性（関節が緩い子）
- ⑤（医学的根拠はまだありません）家族歴

なお固有知覚を刺激するリハビリについてもいろいろ研究されていますが、まだ判りません。またそういうプログラムの中で利用できそうなものがあれば医科学委員会より改めて提示いたします。

なお、早期発見の指標は

- ①関節に血がたまって抜かれたが、医師の診断は捻挫であった
- ②関節が腫れていると言われたが、整骨院で電気を当てる治療を続けている
- ③膝靭帯損傷と診断を受けたが以後の治療法については本人に聞いても知らない
- ④以前に膝が崩れてから、よく膝がカクンとなったり崩れたりする
- ⑤ボールキャリアー中などに不自然に姿勢を崩す（フェイントでは無い）
- ⑥膝の外傷からリタイヤ期間が 2 週を超える 等です。

この様な場合は、大阪バスケットボール協会外傷・障害調査票の後ろにある整形外科診療所一覧を利用いただき、お近くの整形外科に受診して、必要に応じて MRI の検査を受けさせてください。治療結果や方針等は、必ず親同伴で受診させるようお願いいたします。

なお、最後になりましたが、大阪バスケットボール協会に所属するバスケットボール選手の皆様よりの温かいご支援により、まず1回目の全数調査の結果を開示することができました。けっして今回の報告で完成とは思っておりません。ご意見ご要望がございましたら、医科学かあるいはOBAの方にご連絡ください。

なお、部外の方が、本データを利用される場合は必ず、大阪バスケットボール協会の許可を得てからにして下さい。営利・非営利により異なります。

来年度よりは、本年の報告内容を元に作成いたしますので、8月中のアップを目標といたします。

皆さまからのご返信が4月中にありますことを、この場を借りましてお願い申し上げます。

ご協力ありがとうございました。